南山閣詩歌集

完

へ7
4777

詩歌集

完

へ7
4777

歌書千八十二号

南山閣詩歌集 一冊

門へ7
號 4777
巻

早稲田大學図書館
昭34.6.1
藏書

早稲田大學図書

すまひ又おうふうりのたぐひ光りかがやき見物
する人乃世ゝ人乃あたうとんと言ひ合ふやうなる
見ものいとあらしかぜちかき水乃ほとりにたちはし
きもをんなのしきりとふきとるかぜのうちあ
ひくるへ人世ゝ乃なかいとをもいとかしこるへある
ときえ玉のゆゝ幸ときろ志久へをとふれむさと
人乃ゆくへにとまあ次まうるゝ岩ほを
あてすゝしむるかさるゆゝしきうけていと乃
をし松の枝やふる風らうをとろそれるもの
ゆゝしかりふる人え幸ゝ風しハしそれせら

神とをのたうなる神をかまへてワきを花紅葉
とうへまをせをひりゆゝ乃ふるふるの木葉ろれ村くの
多とたるくこうきあるゆゝ小菜ゆゝあくんまふ
所おをうけるとえ人ゆゝそれっうへうのそまる
川乃岸とやいよりのきゆゝそやりおしたら
をしやふるむ地ゆゝかまふろくゆゝのをるも
尺ゆゝうる玉をこしかゝるにとるゆゝやうなる
猫ものうゝれて民の家乃前ゆゝ八つ九ゆゝを
かりゆゝ多のうゝふりゆゝまきひとそるうゝうゝれふ
業とゝふりのゝゝゝゆゝふるゝ○とをまきてなゝむ

日ぞ小夜人はそこ〳〵のきて里のとうり町てうこ
海ひ引人とみやかく人い吉蒙されさきひるこ
のふるとひとうえんとさ〳〵ちり拾きとり宝て
見かる海のをそいふみとれきぬをこうさくさん
やうして鶏るれこ行ち蒙ち身をとこてひる
まりうまやあ〳〵志浦の毎のうく松浦のをてアろ
鶏もひふとる程さるむ〻のれ〻うをさくとあいふ
ずとたく庭のにあ山るとやをかりひうさかる
まこうもこりこ拾ひくく九れ〻ぬきる道をてり
り小松うされとやいあるれ〻うれいうれ〻雀

のみやをもうれおうをしれむうくいあるとと
さる岩ずとうあく秋のうきつくうんれを
郡のむひとにくる島のをとふまくふ
をるんをへるうれうう志宝の国元利
始のふ菜つ武をこ蒙志月乃ふ
さ毎あふ秋田とる利されひきて不蒙
くく影ふりいひ人えくいなたのくをれをうう
おありれうひつむ稲乃くまもあ
てくくをにくくあ毎を海ず十されく
ひをそ月るふ山をれうものひくをるん

のおくふかるかさうに世をるとこれをまの
まいとにはそそのもつたるさたん
海とかいさをいたやとと志川色やあん
あふしはさくむうう大和あ〜おく〜ふく〜幸
こ偽はしといてきるとを御の衣とさうよ
と志川ぱうあ川まること云そ〜ゆ色ままあん
今いあそちは志川にとみ川ちりにありて山雲の
まりのとさと人のせおりと世と似ふく〜ふの
とあるけるる丹ふとと奇とふとのこのみそあそ
そふつ数せとあるかくるあんと太郎ある準也のあし

おやれんをとりて典山さとの打とはるつ面白うん
さあと人〜こ〜ひ〜〜ふ〜ふ〜小とふ〜えて
別々のゆくらことにもて山里の具ア〜〜よ(さ
ようそこ十三それ別をくるまてまもあふはる
んさ〜ゆさ〜ふ〜そ〜ま(ま)ゆてそれ〜ん〜さと
一帖よとてそふ〜ふ〜ふ〜山里れなかあとは
ふ〜これを見川ること志川〜ふ〜(文ようあり
ふ数やゆふれを元と日かふよまわ〜ふ〜見あ〜り
はるふ一つ〜ひ〜ひそんい云の系あるまかつ
あきそかるるんふはさをとてやりれふれふら

のこ奉るしとれをはなてむかそらせしとふん侍らむ
とかくこをせまひ川まとはるれしく波さし志うま
めてむるあをかちれうは年りのかれはくる皆手
乃いをひんかるをはむりをそすきく鳥れこそせりくとを乃
えとうつまをたるゝをとわりしうきとまろくのうきし
と志るしなかころりくは山水のありて妙物よむりて台
のかれをちはやのこらしたへらんとしふと志うけり
菅原盛雄

柳風　村良

春雨れをおもくえおさ風見えくせをはの髪乃くちちうらん

鶯訓　氏豊

咲白ふされの影陽をやとりとや訓くそ東乃末の鶯

雲晩月　成義

明そてハたもみん人もさハ尾上まとも志らむ私ふ出月け

原岳狗　調類

のてりしも得康れ木陰出ふ身ゑへて花よいを見春狗乃え

散名散　信憲

散をそぬハ皇やまふなれ花とくすゝ今朝ハ嵐ゆをを御まそ

棟蒸　義门

恵ある神と君とのをちかつさなうは世徳まりふくるし

尋郭公　　若伝

[illegible]

夜橋　　行信

[illegible]

面中蛍　　伝伴

[illegible]

漁夏蟬　　倫恵

[illegible]

早涼　　蓋行

[illegible]

折萩　　準也

[illegible]

菴虫　　謙恒

[illegible]

秋興　　氏章

[illegible]

林雁　　尚友

[illegible]

落葉深　　希元

[illegible]

夕霜　有定

[illegible]

柞葉　秋康

霜[illegible]

遠山雪　格安

[illegible]

早梅　有義

千世[illegible]

社頭霜　信利

[illegible]

田家井　尚義

[illegible]

雲　義明

山[illegible]

巖苔　豊雅

[illegible]

垣屋燈　永房

[illegible]

橋雨　希倩

[illegible]

行治市　　伝福

市人の交ぬ住まを尺と言ふ道あるかぜの恵うけもち

宗居友　　佐保

世の外と住まを尺ひさをむすび友ぶそうれしが

旅宿　　永保

夜とかるゝ心もとすつゝ笹枕ふるかとゝ旅ひのなうた

芳世祝　　元也

代々居のおさてうるひ安ぬれの恵とあふ〳〵法人

年月のうら石田のぬしはおさとに和のふ所山戸

[illegible]

住吉も山川の外の石のそし世ある塩小世とゝ

材田のふうさ〳〵ふ所と川ある山のうひもをう

川をとゝ形と若系はふすうもむ行繁もるかたて

　　盛雄

乱れそかゝ所山石田居の山花ゝ人へもと

居て住京ゝをれゝうもむふうる和

ゝをもむ（きく）ゝ人て星ゝる山のれ

ゝふ人ゆうもゝと無ゝく見ゝれ

　　伝福

おりけんは河道一ふそれ雲海ゝるをゝれ山

同〜村ふみさそふ過る新樹と云〜

白そ〜若葉の雨のはれそめてみどりの色の

羊腸阪上客来尋仍舊高臺村樹陰白
鳥社檀如在色黄牛津渡曲流深捲簾
能避風塵意當席相憐湖海心持蟹樽
前情不管瞻望此處入幽襟
金華遥指金華浮出没金花暮色秋衆
鳥更送花外轉微風偏傍柳條流江潭
拾翠心逾切叢木尋芳癖未休有似桃
源迷道路回頭此日屬仙遊

右夏日題

石田大夫山莊　田大原恒拜稿

聞開勝境欲懸車應為風光自有餘亭
上山川無近遠卧遊何羨少文居

寄題石田大夫有餘亭　源義質

新卜休焉地結廬松栢間開簾臨緑水
倚檻對青山碧海朝霞滿華峰夕靄閑
眸中非世上僊侶共堪攀

右遊　石田大夫別莊應需賦　雞澤田希績

別業開城北門前車轍連華筵未澗月
蒼佩引林烟松駐秦時色山稱陶氏賢
清風玉壺酒醉唱白雲篇

右題石田大夫新墅　滕清則

高館曾開緑埜幽憑欄勝景自悠〻嶠
雲遠映金華色岸樹常懸碧水流一帶
江湖連戸外千山風雨散城頭賞心此
地耽丘壑何減登臨謝傳遊

右題　石大夫別莊　丹墀沅

幽舍仙源外桃花澗水流彈琴雜松籟
折屐到林丘烟樹當窓盡金華入檻浮
春未武陵路相思滿漁舟

題　石大夫山亭　滕助之

亭上雲深勝景開園林日靜少塵埃風
流殊有山川好豈讓登高作賦才

右題　石大夫山莊　藤粮菴

石大夫山莊記

吾藩石大夫之山莊瑰瑋之美山海之
瓌富蓋瓌焉嚮亭山之高雲之浮水之
流鳥獸魚之遨遊皆熙〻然猶廻巧獻

伎而其為奇也其為美也固亭之有也
且臨觀之瑰瑋櫛比而壯麗也連山縈
青高下之勢岈然洼然若垤若穴尺寸
千里攢蹙累積能罄其狀焉蓋洵美而
且粲者實亭之有也其清冷之狀與目
謀之瀯瀯之聲與耳謀之悠然而虛者
與心謀之淵然而靜者與神謀之山之
高雲之浮水之流其異態固亭之有也
去莊數十步或有社或有民攸居在八
九矣亭之後山或有樵者或有蘓者蓋
望海則波浪渺茫葱倩而其為廣也其
為大也沖融沆瀁無岸也塩浦松島之
勝猶掬之於手而如金華之遠觀之於
近也實悠悠乎與影氣俱而莫得其涯
矣可謂山海之瓌富環焉嚮亭瑰瑋之
美粲然嚮亭山之高雲之浮水之流是
固亭之有也蓋海內之美莫如山水之
美今亭固有實居爰者神乎仙乎石大
夫之樂可以知也於是揚搉其大較而
記之是歲安永九年也　岡安宅

一徑疎松裡青苔日自生雨餘隴麥秀
風外山雲輕亭上無人至窓前有鳥鳴
興來誰不賞偏隔世中情

右題　石大夫山莊　山良平

高館春深傍碧山巖花影映戸庭間從
來此地耽丘壑長伴幽琴白日閑

右題　石大夫山莊　長秀安

咫尺青山隔林園負郭斜窓中看碧海
雲際出金華春滿遠村樹花間臨水家
到來折幽屐終日弄烟霞

右題石大夫山亭　袁玄菖

別館風塵外花時宜把杯酒同幽簡興
坐列石家財滄海春潮滿金華旭日開
五城如画出佳色映樓臺

右題石大夫山莊　芳賀高拜稿

愛此山中相臥遊雲裏鄉澗泉鳴佩玉
島嶼似流觴為政調風雨樂賢醉夕陽
偏餘裁錦色能使滿林莊

園裏仙臺色僊霞杯裏流氣蒸千里國
雲擁五城樓河北山峯秀海東天地浮

殷勤休沐地無處不悠〻

題石大夫山莊二首　菅原基拜具

吾藩大夫廉且賢美錦政治更幾年常
為卧閣能多暇帰沐緩帯媚石泉刳木
取泉長貯月拂石穿雲別有天重門中
設洞然豁雲根有徑若絲懸廻溪峻坂
千餘尺下有盤渦驪龍淵何當鬚茅長松
下嶢榭巖廊碧玉椽檻臨鵬程三十里
窓落仙城十萬廛鏡裏烟鬟帆鳥外金
華岑島棋局前須臾朝嵐交夕翠鳧岸
鶴汀斷亦連興酣染翰雲停座落歌一
曲月臨筵山情水意看不飽樵兄漁弟
夢相牽石自有千日酒戴符自有買
山錢人生行樂如是旦何羨別自覓飛
仙

右奉題石田大夫山莊　藍田源志容

奉寄題石田君別野

大夫郊野枕迴溪官暇登臨望不迷入
檻瀑泉三峽北當窓車馬五城西柳同
彭澤門前植酒似習家池上携請見山
翁帰去晩稚児齊唱白銅鞮

安永庚子秋七月　　仙臺　志季篤十四歳拜

琪樹高林石徑清登臨別館倚崢嶸波
明萬里金華岳日静千年翠羽城樵路
烟霞蔵野興象筵琴瑟入松聲邇遥定
識青雲士此處又應忘官情

右題　石田君別業　原範恒

郭北大夫園〻林幽桂繁桔槔引野水
麻麥擁山村市近通孤馬月来賒一樽
豈應招隠地別有八公尊

右題　石田大夫莊　藤珉

[illegible]

義門

大夫の山荘生涯の茶亭に到り見るに
石壁左右に峙立 水奇石小むせび翠松
万壑に充満す 流泉ありて大白象に
瓦して士峯に対す 也見山城さらして
小さく横さいなり 斜陽西嶺よりかたむく 猶洞の
薔薇のごとし

氏章

苔水の流れに沿て行るいとのごとき松のみち
茶亭をとかきて行るに元也大夫の別
荘と小集して酒宴する有り

氏章

沖ばの花折ふさ行者ゆく流れにたゆたふの源
南山風
青葉山の青葉曙空城の秋の名残いとゆかしく人の
ん地してたゆたふさまの面影松陰の磯
ちかく波寄かさまもしと庭の人はあるさまの後
祈りて人はなくなりぬ
多あり山の姿也
さらとんあるかいたれら立きとも立るとふ
こゝも通る人の多沖と引ゆきうえの方にかふ

あるいはおのづからうえみ垂るるふるさとともうえおほしたてる人の中
かづらうえかりかりもとめ垂るる水のうちの玉もかの
孫子のうえ秋のよりかの行衆かたまりひのこふ
んかりあ山ちさに今もみるうえ多かりかりあり
しにおもひうけせし事は秋いまもりもりてかり
人の命をもうしかこれ行とはくるる水さいふれる
ちりえうえ右田の行うしはもはは山
と注あり不をうえ没うおうさ家と行うう南山
ううと名はうう老淳如南山之寿ふ春和嗣淘潛詩
小孫業東籬下悠然見南山さ乃ちうえ

ややとひうう田園の子乃池小毛詩節南山の我
しうちをいうちとうえきい行おううう人嗣公大歌中門四の
かうう孝書をのふうちはうかううと有篠序
と名はうう第子は父の志をとはうえ小ちやと
しに荒井はのの池と海賊乃第う有餘の米と書
きしとうえきい不ううかとさにうるうとに人楊八記述
大鉢云公亨邪ちをのふとちふうてうう
おおやはは御筆を深うはひう迎祥の二字城絵
しと称ひて粧ひ玉は地つうて西の壁にかけうう
うかうう人やうう山のあるもう海乃人を林のうち

せ水の流れよりも冬の川とて仙人のさうひよくお
そらせみふんちそれもこれもろあらちきを利
てみるにいかは おもやなれおもしろきにながれて南
くすりありけりて玄の後しとなきさるやうに
見せへけるひとく後のくれつとは洞の北とよるれしを
らしつあれ後山の錦も紫とかくる恵の露れを深ま
利よる百草のうはしらおりし國をも東に向ひく
ゆきうちよる海原のさねみうさけ入ましとはひらん
ん她をも金花さうし山はかくの紀刻り投けまちけて
かならおのしりて本まうり南北にも迎てはまる案

山々をそのまとよふみなんも今は本の紅葉を見せ
根まししむ次わしらんとしかひやさる若枝めく同し
名をも海と清浦羽にの什をは定めもしそておうし
まれ浅とそて泉州山迫きはるよかしれ貫川は紀妻を
泉州の山よは席をよみなんとおかし宮は中乃方はある
利く施竈のうは浦しは海とよいひれんもさるまとう
そみんも秋重和りもわりとせうつる浮橋の本川よ仏を
よせましむの浦河られの浪なやと桜多く見えれと知
らぬをとくとさのみもとかくしをん國をかくるあまてるか
おしくるもし山のいてきまて十あるを卒ねとて作り

[illegible]
[illegible]花の末葉紀氏ふるとこそまうす
[illegible]
[illegible]
の坂とりてゆき右白石左玉川なとを標として
[illegible]左の方まつさきにたとりつくせなふ水宮いつ
[illegible]
[illegible]石の[illegible]に石をたてゝ橋柱とし[illegible]
[illegible]石の橋えゝりの人也とつふこゝ
[illegible]えゝてやゝ人ぬるとひの富貴の橋とい
[illegible]人向ひの山より礎石坂をとり石多くもるといふ

おりとき石のゝすまるもとゝ次ゝ佛ゝをせるふ所を探
蘭皐と名付ゝ御元子をと設ゝ雑舌と合ゝかゝ白い
と申ふんゝ文殊堂向ひの山ゝ人内板橋庵の中にお
[illegible]ゝかもろ(のとゝ)ゝ[illegible]ゝ古ゝとを
[illegible]出ゝおゝ翠松思とふふ所をゆりて
おりゝゝさふるゝとりふゝをゝに富士人をと正
[illegible]ふ之ゝをせるゝてゝゝに隅川堂といふ所
[illegible]ゝを廣ゝゝゝ[illegible]ふ所四方をと設ゝ
御後ゝふ為て大ゝるゝ[illegible]ゝを横ゝ佛ゝふまゝとせゝ
廣ゝ折戸ゝ[illegible]ゝあるゝ[illegible]ゝ[illegible]

南条の方にかたよる事なきよし彼酒のまへにある
程を流れゆく水はしる迦き流京乃愛宕山の深き
谷をのぼりし岸のこまかなる小岩をとふにすさみ
戯れこそのありのこなたにさかひをすき
鶴のふしありさまかきもとり川すみゆきて道
あはれ鹿をなふさ花鳥の風にたはふれ
かけちるも志らひく遠き山のあは関路をたまぬ也
うれたきしありけれおりぬれやまちしとまると
まつもるとはつりけれ木の枝南にかかりて露るも
ありそゑんもるあそおもひなきこまこともれ強

丸のをちひしもおとろへしつるん打しもと遠くなりぬ
深しかふる雲間に竹の色乃ふかきとありて清滝
流の寄へよむや涼しれもさまて寄るまより九折を乃
松をのひていつとを経ふれにちりさやの香れるゑ
法屋を作りて紅葉亭と名はしのまして紅葉のゑ定
をとおとつてあり色より寄まみてすりなふ小車の
錦のなかはいとおうしりまかせりおなやけりうを
いそきをやりおうし御返しなふていと無あふれと
とも有りや川のぬれもよも
白玉をばも錦と見西の式部の岸にたてる紅葉の和

につきたる菓子ともすゝむる御くるまあまたぞ
て渦しける椿海やみれりの御酒あるゝさまぞ見えて
給ける やはらかに給はるころなり見え次に岩(?)ふかき苔
に流るゝ水は魔(?)の川の水とぞなりて落るのかげ
紀(?)の波のたゝみひと少しは立まさりて見えつゝある
和(?)泉のさるこし人の忠(?)り行けれ紅のさかり川なとを
うつろんともやられ弥さまんとし見えおもしろさしたに
をかしき関といふ清見が関の関をかしなとも見えけれ
おりしの関といひとまる中にも上の限りといふ名を出して
と見えたり 御もちゐあまて菊山盛らてるまるふゆしく

御盃をとりかふて御殿(?)武者とゆるしつゝ次に御慈(?)ひ
ありわたせはきたる碧海潮に立そひて臨む東海次
立られまさりは紀(?)州(?)の中より舞はじける心地してゐと
おもしろし次に千秋楽をとりあへて声高うのんちまよ(?)ていと
目出度し次に次の御前にかりあれは御殿の君をおもむし
やあなきにも立よりすゝめて御前にも勇(?)めて先期をさくらふせ
女房(?)の君もさくら給ふ主をとゞめ給は消(?)の方人々
さうらひてむ やはりなれもらむ笛鼓(?)をとて 縫(?)舟しまは
あさて かへる(?)ゐりやうなれ御とりけまむりて立れ祝
紀(?)の歌よみて詠りなるふちとて千代とは千代たり(?)と

まちぬとやふくと志めり

法橋謙道德紀

此池をさしてみあまたの池みの中に有しと當
のみしやう及ひのちのちの川しいつくもへさよし
あれハ雑波のよしあしを刈あつむるかとみ本末も
あつぬとをあさをと志わしんもかる所もそことも
「ともへ」このみかのかみをおもこれ閑の世よ似ぬさま
あれハなんかくあるさけるる
彩ハ靈色ハ冰れぬしもかのみしよけるへ文詩ましれ

九月盡前一日
侯駕枉臨于石田大夫別莊有餘園賦
奉賀
鱣坡別業大夫樓　侯駕迎迎郭外
幽興無盡風光猶卜晝有餘園景未過
秋山明紅葉當筵暎海霽蒼波入檻
流自是長看高讌處　恩榮千載在
林丘
源義質

ゆかぬの大ひらえを丈み
小ふ花ひらくまて
朗頼

山のきはゆく雲を吹をはなちて今市に給ふを深沢と云ふ

青き海原とみえたち給ふ

又はあはとなる海原のたてしまきこ海の上にて伝ひ行る

紅葉のさかりすぎたる海とみゆる宮へ

公然入り給ひなと詠 まで歌よみ給ふ

のりかと出へ船 牧あしあがりし眺望ゆへ奇

鍛冶へ

御簾の内のものまきくそ

信憲

かき曇あくる浦して一の蒼海乃婦のきし血そ蕩し たのもし

蕨葉ふうちある所 盛なる紅葉一せい

よへ待る

信憲

詳為よ御渡しくや小雌のよしほ浮し よ雅の紅葉ふし

元亘大夫然小森へ参りし須 殿然くら給

めひあるを穢しあ戸ふしよ国しむ志く出ん

おのゝく汝とめあふなるに雲帆高くまた見

渡したる山の紅のその一木二木淳然

しるあるを然為とや んにのうるよ浄まへ

氏章

山路をふの為とやおもいたらきふ　北を指さし

山々重山の茶屋を見つるまゝに立ち

休憩し息休へ　お原より北の道の原ふ七

八里と聞こゆ　おとふまゝ　あとい原

勝川宿といへる所へ出る　松の根よりお

ふて汗かゝ　乃ち　玉蟲より焼栗を

とりて　休憩　北に出張へ　る　を　変仲章

かんを　破ふ　くひ　ふる　て

山中五里　ちまを　言　は　十里　原　焼栗

ちまを　山　ふ　の　ふ　ふ　ふ　ふ

石田　執政　ちの　き　ふ　海　堆　西　の　山　を　求　の　る　く

家　を　こ　の　ち　本　を　伐　る　地　を　掘　き　ち　き　茶　の

三　茶　ふ　ふ　ふ　家　化　し　茶　山　茶　と　こ　頭　を　持

ふ　ふ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

共　流　ふ　ち　も　月　末　の　九　ち　流　ち　ち　ち　ち　ち

見　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

異　ち　ち　和　歌　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

め　て　ち　ひ　ち　執　政　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

し　流　壽　ち　ち　ひ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

招　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

誘ひ神無月の末休体の宮家も共に
賀集ひ給ふまゝ月の光を
見て居給ふ花田の邸に
大家の邸宅を打壊き秦皇を埋給
ひのやうさき無田はかの洋風の
作りき見るめしかのやかまつ西の方に
見えの如く準備の先きにて建
り宗形堂を造り西の方に傍示の
板あるも尤も明神道左に杉の樹あれ
ども此の墓を明神にあらず休を

為為の所に休所とあるを
造る杉の樹あるも造り石工能
石切出し切業たる石を作りて
今無埋部にやうに小杉の逸るを通
能宮殿に建て埋ひ生出
宗墓の左に左に小小埋て
表に嶽を寄せて採菜皐月を
樹を植る文珠堂に
造る杉岡にあり杉の記にあるか
ここ測る海に方にあるに

芳の又りく隅川遠ふくまて見え侍るも
むれ洛の愛宕山の枝ふ器をお榜も出器
皆南設しも南なるの必すものなりて奥を
さきもふくもつ又坂をのもつも森の紫杉垣
てり渡りも庭る降りぬ東小之道いのもの
むつもそれハ水も至ふ庵いりさいも雲桃
言す味の名よ作ひて味西の山桃め了
修り凡事雲ハふも恐なる深あり樹本く
寝す満り生ふいのま母必す文のもの舗
しのふ時雨の空は霞の地をも畑

の樋よ立のも程と云す及まて桃の匂
るくてさまのら春霞の木ハ雲ふの兼
色ハ忘まま侍る程本く夢の住ものハ
執政いき渦しく樽りの云すも祓き酒
くさかへし奥しぬさのことくて初夏三四
呉の須謝しく人て山を降り己の家讃り
立家ま渦のもの奴
凡非ニのぬ田法し河つり海の見て来ぬ波ちよ
寛くるまて
度もしの倫鼎

有條亭三十三首和歌序

夏の日のはるけくうちなびく岩木を通の
姿をとどめて　心をもとめ　物のこと明らかなる
事を　ひろき志たち流るるもの　藤原元直

乃爲を三代の
公に仕へ奉り　世にすぐれ心をかさね
よせることをこそ　ふる司をかへりみるこの
ちはちの歌を　初めくるまに心ふかく
あるときを　老のこをかくさめむとする事
この寄るかこの山のかげ

志つのある地を　ひろく修学と心ゆる
すこのをこなみ　ちうう　勢らまし　なみの雪
春告鳥なる　梅の文を　深しまきまくの水流
をよろこび　秋の清る　物の紅葉の色を
ひんを　学ぶ　秋の月つき　雪の明
を　打ちながめて　西をつら
なる　心　たの　をんす　春ほさちの
花やさき　筆　仕　きわ　ちの　あさ
きあさ　ひのまこと　乃名　こ　なって　りふ
人　志　後　学　の　すと　心　事　あ　東

海つら伊たひのうら尺波さまてく十八の孫乞咲
山は千手をあかきの李花なりしむかふ手ケ賀の塩竈
の浦は奥ちの里まて遠からぬあとあり戸の僅
ゆる松の字を鳴はほとなきを見えて津こく
船はたゆしく数もとうたのおもむき待るまなく
宮城野の萩咲さかりて織人なき錦とかの
風またまき廣瀬川の水のあかの流を結ひ
しやぬきあ那たの筆に以こそ附よ安永
九年七月もつの阿まるを木のあわ葉そ茂
なりを結んとて以て覚はへき

公のいふ事もひり数を松のむら久方に七十六
夷那ありるも雲の中なく晴わたるも坊方みち
しき佐る正奥せさ塩釜結ひ奴の山の箱
結ひみてきりし結しとて御返し乃
一くさを結るうつなし沢新葉をそめてさ塩
結ふ佐もとの葉を結ることの一つなる寸
めいほくいふとふるおかし　かく秋の日に
猶おく葛の山風岩をと那き夜半乃心
此以とう志賀のあ数よ御かくしたる結なりを
侍のみことを理尸孫も結ひ題消調

乃樂を奏さ琴の人へ笛行の時かる
彦ゝ山を海の水よ記きあひこうかとおそるふ
さの老のものもれもさまに詠かき業
ふるひ人をおもかの小しきみ感一
小の鳥もたを詠をこの梶かむ詠もり歌
枝も山さ復文のまに いつしこの言越ひもと
そをぬきハ尾ゝて庭ちし詠を結ひぬ
志の原て紅葉をのてさ琴詠ゝ師歌のを
詠ゝ師筆をさへ深さをくゝ結ふこの
松原をあきら詠こをの乃なのまもかゝめゝき

やゝきるひとゝきこめもあやかる歌深物をて
一軸をを原ひ師ゝうをの原の歌
をも一帖とるゝかををあふきを書つ
まゝ柳紅葉るゝ象はさを相の形
の世ふる後も山詠の菊紅葉ゝこを後
かふをえをきゝ海世をきをり す歌詠も志
のをさゝ先や

上

元吉

いと面あるこゝに老のゐをやしなふもいとあはれなり山さとにいさらせる居さあく

有餘亭と名付奉るこゝろは例

より紅葉もをそくさく出て花見ぬ

かりしかも長月の末ひとつ

亭をいとせ侍ふとゐいとものさく

しあれば或人歌ひけるの葉ゐとして

紅葉をしたゐのとしれて深くく谷をみるの居をれば

山荘のゆみらを先く

公

居をの業れ奉のうち紅葉さすふの色やふの二八

元吉

思ふ人紅葉ふもいかに居を君の車をとゝまれとい

元吉の老らくまていとゆみる有餘亭

にまいりゆるふ山のゆ紅葉みるかも

とて

紅葉をしたゐのとしれて深くく谷をみるの居をれば

山荘のゆみらを先く

公

居をの業れ奉のうち紅葉さすふの色やふの二八

元吉

[illegible]　　藻宣

[illegible]　　親盈

[illegible]　　掃安

[illegible]　　定義

[illegible]　　義明

[illegible]　　藻宣

[illegible]　　氏章

[illegible]　　親盈

[illegible]

石田氏の山荘

[illegible]　　義明

松陰やしくれを興しもせぬ紅葉ぬ秋風て淋しき梢とぞ

　標葉のちれるを見て　朝く

見おろせは瀬々の岩ほも苔涼の色淡山川乃水

菊後のとみちこに興ありく

それ〻見ゆるふのゑそてしはられ庵も見ゆ山のとみえ

君へを阿ひし須日たけさにさうく山荒

　紅葉ふし映しけるとみえて

秋の日も興も忘しく杉山のとみちや色うつりふく

　此庵の景色をひらきにもえと此ても

朝夕とみるともいつしにの時をもく　かくれしさハ

年をへてみなしき住居をハ老のまなひやしのふの人さ

　同夜御当座

風　　　　　　　范卿

本のかゝりまて忘れ来ぬ流るゝ家の風

菊　　　　　　　村也

名にしハ菊をのせてもいとも色すきて

暁　　　　　　　湛宣

鳥の声もいたしく千年を見ゆる松山の庵の暁をみよ

朝　　　　　　　清昌

これ物きいつてもやみましなくりかきゝふ氏の居を

夕

旅人のたびねさそふなるかりの声

源宣

夜

ふるあめもよわいとうし秋の夜の月の夜を一よのうちにかさ

義明

山

我君の万代ぞ見る小車のすがるにみがく山となりて

氏章

野

天ちかくよもすがらこそ武蔵野の秋のるのもうつくしき花

京定

海

うら波ゆたかなる海原さ和田津みの入江にあさる鶴の

親盈

河

岩間やせきにかかる柳の糸風にみだれて

成章

池

志賀の浦なる外山の庭の池ふりて高のみやこをすもらん

次門

田

垂穂なるひしく稲の末みなる風にうるおふ田

招安

杜

人おとなしい横雲ふかい河田さへ帰る杜の松もり

公

恋

来てけて葉〳〵中も秀の頼〳〵かもるをしひと来てみよ

定義

祝

元亜

いとゝ長き秋とちぎりて君うゑし高野の苔の色を

上

元亜

遠き山ちかきうゑけ色ゝ有て徐亭

八重を隔ひ〳〵かゝれる花もなほとゝまれ

のこるくまなく御あるを乃葉うりとして

有りしかるまゝを御迎ひとてえ

御和尚一人なるゆゑ俳句同

山の紅葉を色ひ〳〵御けりを色

作者御筆を深き色ひくまるかの一帯に

芳しきふとゝいとへうるかゝ御かるんら

て葉乃りとまて生りを新

可ふくまて御あるを御けりを色ゝ乃葉乃ゝ

白鳥社

源道

山城のそれふ御けるを色ゝ乃ゝ乃ゝ

南山園

同

うら紅葉ゝ松と柏と乃生ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

有徐亭

同

春ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

望楓亭　同
をしくも染し色も紅乃にみえわくるは秋の紅葉か

清風皴　同
いさきよき風の川末も末はせに吹わたる夏を忘らん

新澗梅　同
七重やさゆる中にも見えわかす新澗にある花の梅かな

松濤　同
見わたせは岩かねよりて松か濤をさそひて小山の嵐吹

採蘭皐　同
らにもとく人も葉もとくなし浮皐によりて匂ひ出すも

落猿巖　同
行まさ石のかゝる岩根に落るものゝふの袖にぬる露とや見えて

吹津谿　同
松風の音もすみける身谷乃奥にも聞つたへ枝にかゝる

飲虹涯　同
あめして流もそふねをしつけさに見ゆるあやの虹の一すし

吹雲坂　同
塵の外坂みちかゝりの雲とそ見ゆるをさなき

時雨亭　同
いつはりのなきとこゝと見ゆる風をたよりに時雨そ

翠松居

いくよしら雪ふるとしの山の松の色こそ
千年なるらん　同

あるとうらやまるとこそ志のうらに千年をへぬる石みず
臨川亭　同

にうなるこの山ちのみくにんとまるうてるみず
苔清水　同

松陰の岩ほとはしらぬ苔清水ちとりの代をかけて
採菊泉　氏章

竹居

同

打ちかはしけるあるかぶるまのうらにかまうも
翠松居　氏章

岩水もこうしたしくれの枝のせのみとれ新とあるく
同　盛旅

余命ぬ代のみとうもとの代ら砂ら居の乃里
臨川亭　源義

にうなき台の小川乃末を紅葉れ新とうてうん
同　氏章

いろ月乃元きふるうけとあるとそうてあるも過て陰むれの

源川庵　　登雄

流れの末に出でし月をむかひくれば
元直の小家に氏盛を
呼び給へとてよき旅の道しるべ
うつる花をまんまるにて

成義

おん君の嘉例直乃ばかりぬをこれ
霜月たし先は佐うこと木
かぐの末ちたえるのよむ乃
例葉をうて

氏章

雲の後ながめ如ばかりをうて
元直殿の庵をとはせ
松原屋名所うたへ
みちの陸奥にて
たちの花の
後ろ人とようまて
ぬまの例葉
よ　ひの月

盛雄

二年ぶりの花の物語

[illegible]

[illegible]

元直

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

二月初津[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

山館逍遥萬事虚林間回首只樵漁

誰知此處春色遍相對嘶杯興有餘

右暮春陪遊　石田君有餘亭
君見需鄙詩賦七絶一章以呈之蓋
屋所眺望之風景則存亭之記云

平盛從

南山雲[illegible]初[illegible]おのがきたるを[illegible]
[illegible]ことを[illegible]ひなるとて

益行

[illegible]

同

[illegible]

元直の山[illegible]
[illegible]海やま[illegible]
[illegible]

弘道

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

停車坐愛千秋興捧詠親聞大國風已
擇主人多暇日更期賓客罄歡躬啣杯
且喜耽臨眺意氣陶然共對翁

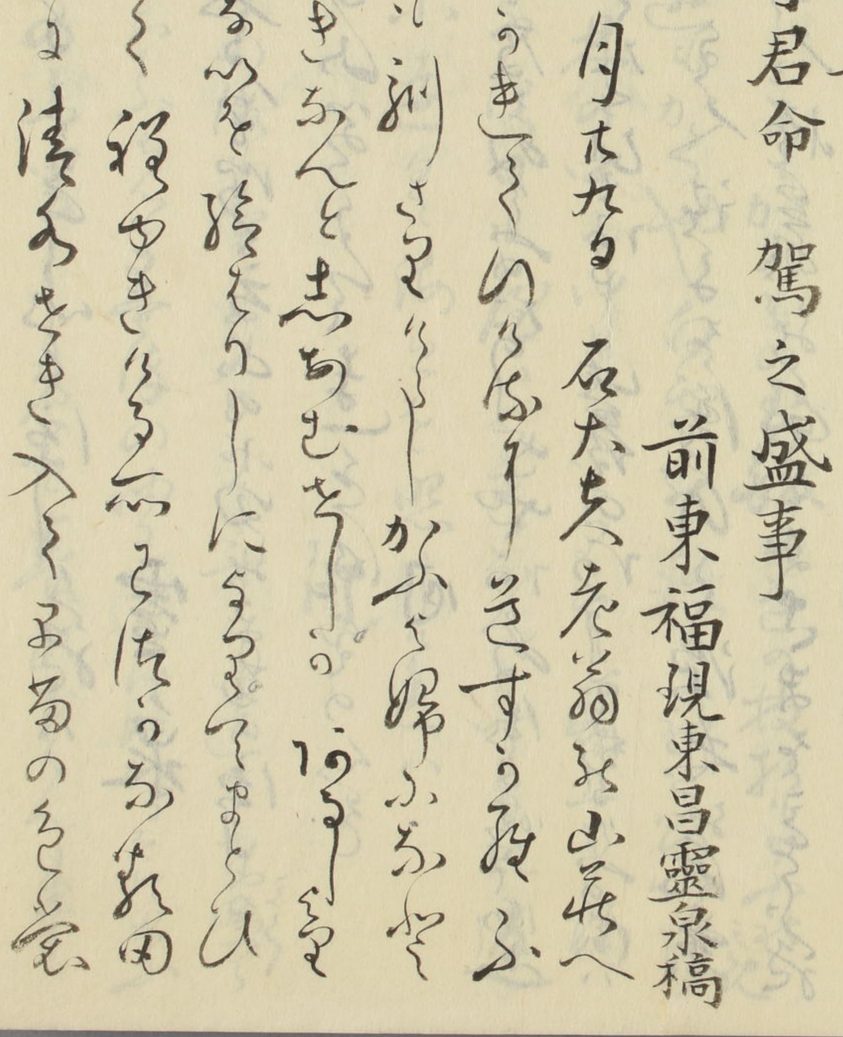
又有餘興

仙臺也有岳陽樓縮地主人成壯遊遙
知吳楚東南坼依舊乾坤日夜浮

右天明元年辛丑夏五廿九日被為
石大夫招遊於南山閣　石君請詩
及和歌席上辞辱三日而後就賦律
絶二首兼詠數首之和歌而以奉賀

前年九月
太守君命　駕之盛事

前東福現東昌靈泉稿



[illegible]

[illegible]

霊泉

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を寿ぎて

尚友

[illegible]

同

田びやるんを[illegible]

[illegible]

村良

夕日[illegible]

[illegible]

信利

[illegible]

海つらの一帆を[illegible]

同

[illegible]

夕晩

畅茂

[illegible]

[illegible]

同

おしなべて[illegible]

[illegible]

鎮定

奥山に紅葉踏わけ鳴く鹿の
声聞く時ぞ秋は悲しき

同

山田の稲刈るとてや夕暮の
秋の紅葉に鶴の鳴くらむ

同

[illegible]の後に鶴鳴くなり海辺の山の紅葉

家宰

[illegible]山に紅葉を生ずるを見て

光義

[illegible]の軒端に紅葉を尋ぬる秋の友鶴
秋[illegible]へこの花[illegible]の物を鶴と鳴く

里ひろぬ[illegible]の時雨[illegible]て

盛雄

小倉山[illegible]ぬ紅葉[illegible]おろし時雨の
名残[illegible]

立春

[illegible]の[illegible]の[illegible]

霊泉

海辺蛍

尚友

[illegible]

竹葉

同

[illegible]

抑部子

氏章

[illegible]

乞巧奠

一筋[illegible]

離萩

盛雄

風[illegible]

氏盛

歌月

信伴

[illegible]

秋菜

弋章

[illegible]

旅泊夢　　準直

[illegible]

神垣の松　　元直

神垣の[illegible]

[illegible]　　成氏

[illegible]

有[illegible]　　同

所えて[illegible]　　同

[illegible]

[illegible]

松濤　　同

十[illegible]

採蘭亭　　同

[illegible]

落猿巖　　同

[illegible]

吹律翁　　同

[illegible]

火雲坂　　同

[illegible]

河内国

[illegible] 同

翠松居 同

[illegible] 同

[illegible] 同

[illegible] 同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋後林密木葉稀江天遥見雁鴻飛寒
威未到南山閣乘興忘帰醉晩暉

右秋後同源子敬登南山閣賦七
絶一章奉呈　貴主人

平盛従

窈窕林莊歩屧難南山高閣入雲端幸
縁登陟随玄度萬壑千峰次第看

同平子政遊南山閣　源義質

神無月中旬の頃とよみ侍る　　元也

深草の秋のうらみと侍りつる紅葉は
神無月ぞ
千歳ちかき紅葉とぞ見ゆる

山風にさそはれぬ紅葉は
神無月
まだ散り残る紅葉ぞ
　　以實

秋と十月の月を題にして侍る　　氏章

冬日

紅葉のもとかくれ中の滝口

冬月

　　遵良

冬雨

　　信福

歌ひ侍りし冬月の歌

冬夕

　　準也

秋と云ふ物の紅葉を題にして侍る

冬夜

　　氏章

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為ひ子の山荘にて七月十五夜
よみ侍りける　の月の光は
海にうつりて東湖の舟を繋ぎ
八百歳千秋の色とぞ
ひかりあらそふ　月清し
つゆ　ながめ
月清し　繋を
眺望信濃山家歌　山家残菊
とふことを　名所月清
夜　ながめ
とふことを　月清
山家　とふことを　準直

山風に木の葉もさそはれぬ宮の内人さびしき
山家眺望
とふことを
を通り深をいつしか雨の降るかと山の下庵
山家残菊
とふことを　信濃
菊
山家　とふことを
菊の花の色ばかりは山の秋
山家秋
とふことを　氏章
今志賀の山寺の紅葉の色の深きのみ
山家紅葉

[illegible]

氏章

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山里もみちばかりたる高きをみきりて[illegible]の一入

もとゆき

文月末七日ごろ南山寺のほとりにて
七日文月和のふりて海原をはるかに和歌
のぶそそそんしまもせうとうとやそふ
所のそらあらく海原風波
有和のそらあらかに海風特吾なきとそ海ふる
うとうとふるれハ袖下と雲通るまもとに旅人
の行路なともあんともひきるり
ふるうとうとひハ行とのひぬ(文重)ふるる旅人のまを

元智

海ふるふの間ふ行ふまるふ尾の紅葉宮小移ふく
神之月末の月末ふ南山ふと尋ふふ
花ふしてのふせる紅葉ふを庭ふせて
吹ふ寄ふ来ふ秋ふもふふ

弘道

尋ふふふ山のふひふ海ふふ紅葉沢ふ赤ふ
秋の色ふとふ
山ふふふして時和ふとふて

同

今ふを秋の色ふおふんと紅葉ふふふ山海ふふ

初冬時雨　希績

時雨ふる海はとんぼ泉かな　時雨庵

河豚　霊泉

[illegible]の海まで[illegible]

鍋　[illegible]

[illegible]　希績

池と初氷　弋章

[illegible]

野宿草　白泉

[illegible]

曉霜　長宜

霜を初めて[illegible]

冬月　同

[illegible]

[illegible]　準直

[illegible]

冬恋　弋章

[illegible]

冬祝　準直

[illegible]

白鳥社　長宜

いのちたまゝ〳〵の世をいとゝ高砂の松かえ〳〵き君をぞ祈

南山園　同

ゆくをかをさそふ風にまかせむとすれば又雪ふりにけり

有隣亭　同

いのちのつる宮ゝ千代ぞ見ぬ人ぞ知る

宗旨　同

たくひなき　もゝしのつるわう根よりて待つる秋ぞ限ハ

清風皷　同

夜の蔭に吹ふきぬ物を打たゝる風の涼さ

軒端梅　同

春ぬ来ぬ立枝ぬ梅ぞ咲ぬ軒ぬ梅の

松寿　同

世ちの人ゝとゝもとゝ戸つゝ時ぬ分を一ほの深き深を

揉茶臭　同

高ふえの音ぬ聞ぬ角ぬを吉ゝ来て吹る一本

義揚　同

見ぬ月ぬ本ぬ植ぬ花ぬ三ゝ乙な事を多ぬ花ぬ

吹律　同

吹角ぬ世ぬ人ゝ聞ぬ世ぬ人ゝ

何虹涯　長宣

夕立の晴るゝ時に流れ来て虹の一筋

吹雲坂　同

雲毎に吹くなるべし坂の名の吹雲坂

時雨亭　同

むらさめの降るまゝの名ゆかしき尾花おぼゆ

翠松岡　同

千とせをこゝのまつかゆ岩ぬ家の苔むす松の岡

承露盤　同

仙人の手をかりて露を受ける盤のうつもれ松の岡

桜川春　同

あらの山ゆ桜を枕にふたつ流れ川ちるくむ春に

苔清水　同

世を捨てゝ名をも苔清水苔清水ながるゝ迄も尾花

登石田老大夫南山閣

攀上南山閣溪田路轉深片泉飛翠嶂
斜日掛楓林鳥倦對無意雲閑出有心
千般風雨好停錫奈呻吟

有餘亭　大安薩道稿

南山飛閣聳雲根數里阪邊漸入門有
餘亭觀三四景仙臺佳境別乾坤　大安薩道稿

毎山有春　　元直

雲を皆清き地の心抜き連こゝ此ものの方に山の雲もなき

雲を皆清き地の心抜き連こゝ此ものの方に山の雲もなき　佐休

後の方に山の奥まで雲もなきものの方に山の雲もなき　統兼

後の方に山の奥まで雲もなきものの方に山の雲もなき　清澄

おしなべて雲なく山の奥までも雲もなき初めぬる

山を皆清き雲の吹初めて雲もなき朝の風　魚り

雲なき形の雲の雲に雲なやよそふる雲の形引　準直

同

天州七郡秋日野為亜相資枝卿郡の東の
山荘を山荘の晩秋を賞し給ふ
内ひろ〻と雲なき府内の名所
を題し奉り八月の末を歌し　和歌を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

杉宮　準直

[illegible]　同

揉茶臼　同

ふちたのぼ杉うら宮杉る深あり　白雲うりに[illegible]ほ

苔清水　同

[illegible]　苔[illegible]

落猿巖　同

[illegible]

次律紹　同

[illegible]

何虹滝　同

[illegible]

次雲坂　同

[illegible]

時雨亭　同

杉[illegible]

翠杉園　同

[illegible]

[illegible]　同

枝くまなく松のうれまばらなる家の[illegible]

[illegible]川庵　同

水上[illegible]

登南山閣

樹影見中流處〻落葉多鐘聲響山家

月明松林過　田公別業倚崔嵬

曳杖相携北嶺隈

地閑久坐耽詩賦興熟清談對酒杯遠

近山川雲掩映高低泉石客徘徊望楓

亭上紅楓宴錦繡飄風夕照催

右冬初同諸君遊

石田君高莊　平安蓁豬基

拜艸

[illegible]

[illegible]

種玉子

[illegible]

神無月[illegible]

[illegible]

[illegible]

看水

[illegible]

秋闌霜葉江山擬雲色遥看舟浪閑今日含杯盡君興錦光那惜望楓山

右陪　種玉翁登望楓亭　佐益信拜

富山冥丹楓十首　準直

[illegible]

[illegible]

謙種玉軒石田老士詩并引士者

使于

國主之公而一時之間人也 公曾賜

休暇之地于艮峯要蓋勝景相聚之幽

處者也士 公事之餘就地營茅舍則

實得半日之閑於茲者乎致仕之後每

値春秋逍遥於其際居者三五日而帰

云所謂避世喧愛仙齡之籌在于此哉

可嘉可羨今歳戊申冬初招余山亭竟

日翫賞楓葉約供蕎餼款待殷重云是

述興情席上賦絶句而賜之翌早裁五

律一首以謝且壽贈之

功成身且静名遂心又新老鶴巣松

杪丹楓灑水濱慧翁同昔友陶士有
今人勝却廬山趣謙君嘉饗親

大年英蒲庵拜

瀛洲一望興無窮中有神仙耽好風招
我呼来須景處滿山楓葉色弥紅

右小春九日應請

種玉老翁於南山閣　大年英

初冬紅葉大沼畔
[illegible]

雲島

山里紅葉ちらくらんとすれども
いくの世のなぐさめとのみ秋を限りの色ぞ
南山樹色醉霜時閣上壯遊興可知春
霽赤城霞起詩秋深楓葉錦繡疑花筵
況有珎饌美鄙曲寧無詩賦奇更喜此
中依種玉袈裟幾訪翫摩尼

右初冬上浣　種玉軒主嘉招
両足尊者觀楓於南山閣上且命予
侍丈席上率賦一律奉謝殷侍云

風斤　茂山副寺踞金猊敬拜

南山岡毎十首　準亜

[illegible]

一人のあるじとなるく[illegible]

松杉のみどりも色に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白雪社　昌廣

[illegible]

南山岡　同

[illegible]

有餘亭　同

[illegible]

[illegible]亭　同

[illegible]　同

清風殿

吹[illegible]風も[illegible]のこと[illegible]柳陰[illegible]の下庭　同

明月梅　同

明風も[illegible]ると[illegible]ふる[illegible]花の枝

松濤　同

仙人とかくれもせぬ[illegible]ひとすじに[illegible]

採菊臺　同

[illegible]

苔清水　同

[illegible]

蓬莱嶽　同

[illegible]

吹律谿　同

[illegible]

[illegible]　同

[illegible]

[illegible]　同

[illegible]

吹雲坂　同

[illegible]

時雨亭

[illegible] 同

[illegible]

翠松邊

[illegible]松[illegible]の[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible]世の[illegible]の[illegible]石の[illegible]

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

千秋樓

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奥陸能將軍二任賜社不動代々家
大殿棟梁乃材丹波賜布石田郡乃妻
堅郡乃郡能住境地廣ク二樹見晴加
ゝ毒能霞隆秋乃月夏乃清久丹ゑゝ
雪曇閑山高ク建手拿乃山乎壽立文
丹書奈仮ク爲迄治ゆ尤ゆ由ク年
最毛畏ゝ　大夏乃仮能三世ク支設
ゆ佐留所乃ゝ係能弘下給布也鄭係ゝ
ゑ乃上人比ク迄名ク支著寸ゝ蹟弘慕
爲ゆ世屢ゝゝ耳脱末ゆ歳給布ゝ乃

茶茂久ゑ盛ク禁ゆ物波生ゆ河南乃
山ゝ連ゆ比能

反歌

爲ゝ物ク東乃奥乃名ク支乎此山高乃上
ク名ク二ゑ二物見　通坐
林亭引客對風光松下清筵酒復香坐
愛滿山霜葉色停杯臨眺賞心長

右遊　石田君山莊　平盛行

林中南極野名勝亦無疆西嶺紅楓老
東流素練長盍簪移醉席官暇占詞場

高雅開茲閣系羞天保章

右南山閣　源行

準空のあしたは花ゆとりるとそれとうくくしみ弟子

成真

天竺の仏法ゆ[illegible]

[illegible]

南山閣月十首

準空

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬初遊　石田君別業

携樽也擁褐遠上老松間樓逼蓬瀛海
窓含表裏山葛巾吹雨冷藜杖出雲閑
從是西南路醉中希月還　橘白英

南山閣分字得山

峻嶒攀上萬尋山中有仙居非世間忽
學老翁養精術斜陽添得壽齡還

大年照哲稿

寛政甲寅初冬登
石田豊前公南山閣賦此伸謝

南山譽價響仙臺萬里塵寰雙眼開白
石高疑通釋帝滄溟直訝近蓬萊境隣
鳩嶺仰神德閣對五城祝上台更飽醍
醐真妙味自恥忘向舊峰回

大年照哲書

前者石田雅君有令予與茂山主
遊南山閣之約今伏病不果仍賦
乙絶以寄贈

嵯峨雲閣称南山翠竹丹楓壽色閑病
裡恨違遊望約枕頭空憶畫圖間

釋光普明具州

南山閣集分字得楓

江頭秋去鬬丹楓紅錦連山萬疊工偶出袛林忘此日使人一刻入壺中

甲寅小春從茂山老人遊南山閣　僧雪江草

節乎山閣倚城東圖畫風光望不窮欝欝松千歲翠明丫丫丘壑小春紅筵中時待西王母天際常迎南極翁仙苑興情帰此地吟花嘯月仰家隆

周南散人釣雪江欽州

咏南山閣十八勝并引

今茲甲寅小春予從茂山老人而一日遊於閣以盤旋焉厥景之美哉山川鍾秀乎然遥望則仙城市陌重巖萬木兮或名取川阿武隈河宮城野十符浦松浦末松山塩浦金華山之數勝總而有於檻外觸目之中矣以其山林欝密乎方六七里也然嶺回路轉而奇景最多矣奇如馬頭石如牛首者以間之予雖

孤陋終日遊而懶空帰矣乃咏閣邉十八勝焉以申其遊云

白鳥社　僧雪江草

松林盤欝處白鳥此翺翔尚為祥為瑞
祈年靈感長

南山閣

閣高仙苑上松栢撑險巇南極當筵爍
此中日月遲
有餘亭

紫烟渺渺下清寂若仙居花月優遊客
興情猶有餘

清風館

紫門遲日夕緑竹起清風樵者檐薪去
入涼望碧空

望楓亭

一宇巍然處景光有暮秋楓林縫錦去
織女裏遨遊

千秋樓

扶桑仙子地樓有白雲中總帶千秋色

四時萬物同

軒端梅

老梅知幾歲盤屈有軒端花發霜雪裏
堪容亭子歡

松崎

維石巖巖矣樹林蔽峻崎連山多雅興
人喚曰岑嵜

採蘭皐

夫蘭揚揚兮馥郁皐于谷將逐四時萎
覆蔭佳人屋

苔清水

清泉松竹下渺出緑苔流遠遶田逕處
玉音入樹幽

落猿岩

絶壁三千丈野猿不能微茫遥帶霧礫
石落雲層、飛

吹律谿

一溪青黛裏松水奏篁琴共入仙家檻
寧交白雪吟

何虹涯

山霭蒼〻處不霽何彩虹將愁垂澗下
千歲望無窮

吠雲坂

俊獵纔吠雲色響度添雲間道乘雲去
到今有彩雲

時雨軒

三秋欲暮夕貯雨遶谿寒松下何求處
有偷承露盤

翠松岡

青松夫欝矣疊翠擁高岡不露歲寒色
茯苓次第生

承露盤

奇哉一片石萬古在山隅常承朝来露
永擎盤裏珠

臨川臺

臺假樵夫路川臨簑笠人不拘滄浪趣
堪慰白雲心

仙洞社　　淮西

[illegible]

同　　藻宣

[illegible]

同　　遠庭

[illegible]

稲荷社　　遠宜

[illegible]

同　　遠庭

[illegible]

石田氏の山荘　　一日庵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

小倉野

謁

石田氏山荘題南山閣以贈

江上雨晴晩照暉憑欄斜瞰景光奇村
；簇錦鼎浦曲樹；凝青松嶺碕低首
名川緑波泛拳頭宮野白雲迆閒身偶

謁南山閣俱酌壽杯祝萬基

丁巳冬　寓大年禪梁稿

春日遲〻也別精又看黄鳥隔溪鳴頻
思佳興就人好良節乞明君親清

右石田公之見招別精佳興　大年鳳端草

辛酉初夏遊南山閣

天際雲晴正似洗應招移步石田園許
多躑躅爭紅白數樹緑蔭競茂繁無盡
景光諸草木千花萬葉境中屯南山閣
上薰風至各〻人〻撲鼻蓀

両旦老衲一如草

安清

道雲

[illegible]

道雲

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

翠松色[illegible]

[illegible]

南山閣　定安

[illegible]

[illegible]

南山閣　茂山・鳳

名迹轉多東奥州春花秋月望悠〻南
山高閣登臨日好景使人更解愁　同
有餘亭
深入林亭辞世誉萬金難買此安居若
逢客到以何供有月有花樂有餘　同
千秋樓
奥東勝地倚高樓遠近海山入望幽閒
説松吟長壽曲不知経歴幾千秋　同
清風館
探勝乗興奥山東林館雲深松逕通自

有携琴遊客到任他一曲送清風

望楓亭　同

山亭何可有姱奢却看風前佳興多一望丹楓添艶色滿林霜葉勝春花

軒端梅　同

靜中誰是搆軒休窓外韶光望轉幽馥郁梅花春色好請看此地似羅浮

松崎　同

世塵遠避與山陰日樂清閑似養心靜坐安然松樹下風壺疑是弄瑤琴

採蘭皐

見說東皐蘭拔芽紫莖綠葉也香葩天生元是不凡卉翻憶老賢羅含家

苔清水

奥東涌出是瀆泉傍見草苔似青氈轉思仲秋三五夜清波堆上月嬋姸

落猿岩

山勢蹉峨東奥州擁雲跨壑路悠悠笑看巖畔玄猿落進步猶難得自由

吹律谿

仙境烟雲山磴涯深居不可人知天風
蕭然拂塵潔吹律賞音欵耳眤有
何虹涯
雨歇雲收夕景懸河流凄冷水溪虹
橋長見三千尺大似架櫛欲上天
吹雲坂
此地幽棲宜養生花茵草座便為榮山
家雖遠有人訪頻聽雲中吹犬聲
時雨軒
塵世遠離山下廬唯甘寂閑一心虛雨
中便是客来少獨坐彈琴也讀書
翠松岡
喬松高聳與東岡千歲為榮翠色昌枝
葉欝葱蘇似穗昔時尚有大夫裝
承露盤
見說與東一石盤天生涌出似山巒只
承玉露甜香味夜〻不憚沉瀣寒
臨川臺
誰知別是在仙鄉崒〻高臺河水傍不
怖人間炎熱苦登臨夏日自生涼

白鳥社

威神在處海東涯垂跡曾無人不知欝
密森〻雲樹裏尋常白鳥止高枝

稲荷社

瑞雲擁社日如春可崇稲荷護世神鎮
座現然東奥地古今利濟幾多人

竹駒社

巍〻山上崇金宮画棟碧甍雲霧中擧
世衆人稱竹駒明神威德更無窮

良廣

求知

廣元

[illegible]　　源淑

見[illegible]と[illegible]秋の[illegible]の[illegible]

同　　知安

[illegible]の[illegible]の[illegible]

秋の[illegible]

[illegible]人　　知[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　底雄

秋の[illegible]と[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]人の[illegible]　　資氏

[illegible]月と[illegible]

[illegible]月[illegible]　　同

[illegible]　　同

[illegible]秋[illegible]

時[illegible]　　[illegible]

[illegible]

菊山うつ　良慶

[illegible]

有隣亭　同

[illegible]

千秋楼　同

[illegible]

清風波　同

[illegible]

[illegible]　同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

彩霞の雲と共にうつる山色の深もなほ秋の色哉　同

[illegible]

松ケ浦　同

[illegible]

採蘭亭　同

吹風[illegible]

岩清水　同

世[illegible]

落猿巖　同

[illegible]

吹津路　同

[illegible]人の友ふ[illegible]

何処滝　同

[illegible]

吹雲坂　同

[illegible]

時雨亭　同

[illegible]

翠松岳　同

[illegible]

義嘉盤　同

世[illegible]

源川尾　同

[illegible]

白鳥社　同

[illegible]

稲荷社　同

[illegible]

伊豫社　同

[illegible]

菊山岡　次得

[illegible]

[illegible]　同

山川の[illegible]この時をとはるる[illegible]

千秋橋　同

[illegible]

清風波　同

[illegible]

新緑梅　同

[illegible]

松濤　同

[illegible]

[illegible]　同

[illegible]

苔清の[illegible]　同

[illegible]

[illegible]　同

[illegible]

吹津嶺　同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

[illegible] 同

[illegible]

南山岡[illegible]

[illegible]　　江行

時雨[illegible]　　同

[illegible]松[illegible]

[illegible]二十日[illegible]南山[illegible]

[illegible]時雨[illegible]　　廣信

[illegible]

南山[illegible]

[illegible]　　不隆

[illegible]滝の響[illegible]

南山[illegible]

[illegible]　　同

[illegible]

海山や月入[illegible]の庵

[illegible]　　定賢

[illegible]

如春冬候五城傍酒満青樽客滿堂窓

對金華篭秀色門臨滄海帶晴光岩扉

養鶴雲無影溪畔探梅雪有香相見不
惟山水美笙歌別入坐来長

右冬日遊南山閣　　橘行廣

登南山閣　眺望八景

南山閣上此登時遐邇景光望轉亘塩
竈烟生三社並江流月照十符涯宮城
野廣鹿眠艸松浦風清鶴泊枝東奥探
勝猶未盡古今更有幾篇詩

　　茂山梧